

基本理念:食を通じて、市民一人ひとりが生涯にわたって健やかでこころ豊かに楽しく生活できるまちづくりのために

第3次食育推進計画の重点課題(案) に対する意見	意見等内容
<p>1 健康寿命の延伸につながる食育の推進</p> <p>栄養の偏りや不規則な食生活などに起因した肥満・生活習慣病の増加、高齢化社会に向けた高齢者の低栄養予防など本市の抱える健康上の課題改善に向け、ライフステージに応じた間断ない食育を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生活の質の向上及び社会保障の軽減につながるため、重点的に推進すべき 生活習慣病の発症・重症化を予防し、健全な食生活を実現するためには、日々の生活を見直し健康な食生活を実践できるよう支援することが重要であるため、重点課題として設定すべきと考える。
<p>2 子育て世代を中心とした食育の推進</p> <p>子育て世代は次世代に向けての食育だけでなく、自身の生活習慣病予防や将来的な健康寿命延伸といった生涯にわたる食育の中心的世代ととらえ、子育て世代を柱とした食育を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子育て世代は、親として次世代に伝える立場となるため、食に関する知識を深め、意識を高め、心身の健康を推進する食生活を実践することができるよう、重点課題として設定すべきと考える。
<p>3 多様なライフスタイルに対応した食育の推進</p> <p>様々な家族の状況や生活の多様化に対応し、こどもや高齢者を含む全ての市民が健全で充実した食生活を実現できるような食体験や共食の機会を提供していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 社会環境の変化（世帯構造や生活環境）により、健全な食生活を実践することが困難な場面が増えてきている。また、若者から高齢者まで様々な世代に対応した取り組みが必要となるため、重点課題として設定すべきと考える。
<p>4 食環境の整備を意識した食育の推進</p> <p>食の安全、食品ロス、地産地消など食にかかわる様々な環境を整備し、市民が食育を実践しやすい食環境づくりをすすめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生産から消費までの一連の食の循環を意識し、感謝の心を育むとともに、食に対する正しい知識を持つ機会を得る取り組みは必要であることから、重点課題として設定すべきと考える。
<p>5 地域の食文化の継承に向けた食育の推進</p> <p>いわき市内の各地域で長年伝えられてきた郷土料理や行事食などに関心を持ち、日々の食生活の中に取り入れていくことを目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 郷土料理や特色ある行事等、受け継がれてきた食文化を、途絶えることなく未来へ継承していく必要があることから、重点目標として設定すべきと考える。

第2次食育推進計画の指標に対する意見

指標	意見等内容
1 食育に関心を持っている市民の割合	<ul style="list-style-type: none"> 重要であることから 推進するうえでは認知度が前提となることから 食育への理解を判断する指標となることから 基礎データとして必要
2 朝食または夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数	<ul style="list-style-type: none"> 「共食」の機会が少ない家庭も増えていることから 重点課題を分析する際の指標となることから 児童・生徒の健全育成に向けて重要であることから
3 朝食を欠食する市民の割合（小・中学生、16～18歳、19～29歳、30～39歳の世代別）	<ul style="list-style-type: none"> 重点課題を分析する際の指標となることから 欠食は健康に悪影響を与えるから
4 栄養バランス等に配慮した食生活を送っている市民の割合	<ul style="list-style-type: none"> 食育の基本であり健康維持に極めて重要であるため 健康寿命を延ばす、また生活習慣病や低栄養予防に効果があるため 重点課題を分析する際の指標となることから
5 肥満や内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）の予防や改善のための適切な食事、運動等を継続的に実践している市民の割合	<ul style="list-style-type: none"> 重点課題を分析する際の指標となることから 予防・改善に向けた取り組みが必要であるから 適切な食事、運動は生活習慣病予防に不可欠なため 健康的な生活を続けるためには必要であるから
6 よく噛んで味わって食べるなどの食べ方に関心がある市民の割合	<ul style="list-style-type: none"> 重点課題を分析する際の指標となることから 健康で豊かな食生活につながる 出前講座アンケートより開設要望があったため 肥満防止につながるため
7 食事の時間が楽しいと感じている市民の割合（15歳以下）	<ul style="list-style-type: none"> 食事の基本は楽しく食べることから、残すべき指標である。
8 食品の安全性に関する基礎知識を持っている市民の割合	<ul style="list-style-type: none"> 「食品への興味・関心」「賢い消費者の育成」に繋がることから 放射能汚染の影響で、食の安全性に関する情報提供は重要であるため 食中毒死亡事故等防げるものがあるため 正しい知識と判断が必要であるため 重点課題を分析する際の指標となることから 重要であるため 出前講座アンケートより開設要望があるため
9 食物アレルギーに関する知識を持っている市民の割合	<ul style="list-style-type: none"> 「食品への興味・関心」「賢い消費者の育成」に繋がると考えられるから 食物アレルギーが増加しているから アレルギー患者が増え、アレルギーとなるものの食品の場合、差別、偏見を招くから
10 外食や食品を購入する時に、栄養成分表示を参考にしている市民の割合	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身の健康管理に役立ち、重要であるため 重点課題を分析する際の指標となることから
11 自分で料理する機会が週に1度以上ある市民の割合	<ul style="list-style-type: none"> 健康的な食事をとるために、家庭での料理は必要不可欠であるため
12 食文化（伝統食や食事のマナーなど）を大切にしている市民の割合	<ul style="list-style-type: none"> 食文化の継承は重要である 重点課題を分析する際の指標となることから
13 適正体重と判定される児童・生徒の割合（学校保健統計）	<ul style="list-style-type: none"> 肥満防止のため、適正体重を維持することが重要であるから
14 農林漁業体験を経験した市民の割合	<ul style="list-style-type: none"> 食料への興味関心を持ち、食卓に取り入れる機会を増やすことができると考えるため 重点課題を分析する際の指標となることから
15 食育の推進に関わるボランティアの数（いわき市健康推進員等の数）	<ul style="list-style-type: none"> 行政だけでは限界があり、市民との協働が必須となることから
16 環境にやさしい農業に取り組む エコファーマー認定者（新しいわき市農業、農村振興基本計画）	
17 学校給食における地場産物を使用する割合（食材数ベース）	<ul style="list-style-type: none"> 将来的には地場産物の活性化にもつながると考えるため

目標(指標)	第3次食育計画に向けて、取り入れたいと思う目標とその理由を御記入ください
<p>1 食育に関心を持っている国民を増やす</p> <p>食育に関心を持っている国民の割合</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関心を持つことが重要であるため。 ・健康的な生活を送るためには、食に対する情報に興味をもつことが大事であることから、指標にすべきと考える ・基礎データとして必要であると考えため。 ・いわき市の第2次食育推進計画においては「周知から実践へ」の段階に入っているが、まずは周知されることが実践につながると思われるため、指標とするべきと考える。 ・食を取り巻く環境を理解することで食の大切さや意味について意識する事から食の改善が図られると思うので、指標とするべきと考える。
<p>2 朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数を増やす</p> <p>朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・誰かと食事をして楽しいと感じることで、食事自体に関心を持つようになるのではないかと考えるため。 ・食を取り巻く環境を理解することで食の大切さや意味について意識する事から食の改善が図られると思うので、指標とするべきと考える。 ・児童・生徒の健全育成に向けて重要であると考えため。 ・「共食」は食育の重要な要素と思われるが、家庭の状況や生活の多様化の中、「共食」の機会が少ない家庭も増えていることから、指標とするべきと考える。
<p>3 地域等で共食したいと思う人が共食する割合</p> <p>地域等で共食をしたいと思う人が共食する割合</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化により配食サービスの需要が増し、食の確保が課題となっている。しかし、山間部では配食サービスの担い手となる事業所や施設が少ない。そのため高齢者が地域で集まり一緒に食事をすることは健康寿命延伸や安否確認のために重要であり残すべきと考える。 ・食を取り巻く環境を理解することで食の大切さや意味について意識する事から食の改善が図られると思うので、指標とするべきと考える。
<p>4 朝食を欠食する国民を減らす</p> <p>朝食を欠食する子どもの割合</p> <p>朝食を欠食する若い世代の割合</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食を摂ることで生活のリズムが整われ、肥満等の生活習慣病の改善になりうることから取り入れるべきと考える。 ・若い世代での欠食の状況から、今後も指標にすべきと考える。 ・児童・生徒の健全育成に向けて重要であると考えため。 ・食を取り巻く環境を理解することで食の大切さや意味について意識する事から食の改善が図られると思うので、指標とするべきと考える。
<p>5 中学校における学校給食の実施率を上げる</p> <p>中学校における学校給食実施率</p>	
<p>6 学校給食に係る地場産物等を使用する割合を増やす</p> <p>学校給食における地場産物を使用する割合</p> <p>学校給食における国産食材を使用する割合</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの頃から地元の旬の農水産物を食べ、豊かな食を楽しむことのみならず、地場産業への興味関心、地元産品への親しみを持つことで、将来的には地場産業の活性化にもつながると考えるため。 ・食を取り巻く環境を理解することで食の大切さや意味について意識する事から食の改善が図られると思うので、指標とするべきと考える。
<p>7 栄養バランスに配慮した食生活を実践する国民を増やす</p> <p>主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている国民の割合</p> <p>主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている若い世代の割合</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の栄養素の欠乏・過剰は、貧血や肥満、生活習慣病の原因となる可能性がある。適切な栄養素をバランスよく摂取することはそれらの疾病を防ぎ健康寿命延伸につながると考えるため。 ・高齢期では、主食・主菜・副菜を組み合わせたバランスのよい食事により様々な食品を摂取することが、低栄養予防には重要となるため残すべきと考える。 ・生活習慣病の予防・改善には、適切な食生活を日常的に意識し、バランスの良い食事を継続して摂取し続けることが重要であるため、取り入れるべきと考える。 ・食を取り巻く環境を理解することで食の大切さや意味について意識する事から食の改善が図られると思うので、指標とするべきと考える。 ・偏りない食事による市民の健康維持は食育の基本であり、重要であると考えため ・栄養バランスに配慮した食生活を行うことにより、総死亡、循環器疾患等による死亡リスクが低くなり、よっては長寿につながるから取り入れるべきと考える。
<p>8 生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気を付けた食生活を実践する国民を増やす</p> <p>生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気を付けた食生活を実践する国民の割合</p> <p>食品中の食塩や脂肪の低減に取り組む食品企業の登録数</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病の予防にあたっては、食品中の食塩摂取量や脂肪の低減が大切であり、特に食生活に対して関心の低い人への意識づけが重要であることから、取り入れるべきと考える。(例：食生活に関連する市民講座の実施等) ・食を取り巻く環境を理解することで食の大切さや意味について意識する事から食の改善が図られると思うので、指標とするべきと考える。
<p>9 ゆっくりよく噛んで食べる国民を増やす</p> <p>ゆっくりよく噛んで食べる国民の割合</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食を取り巻く環境を理解することで食の大切さや意味について意識する事から食の改善が図られると思うので、指標とするべきと考える。 ・早食いは肥満につながるから、取り入れるべきと考える。
<p>10 食育の推進に関わるボランティアの数を増やす</p> <p>食育の推進に関わるボランティア団体等において活動している国民の数</p>	
<p>11 農林漁業体験を経験した国民を増やす</p> <p>農林漁業体験を経験した国民(世帯)の割合</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農林漁業体験により、食料への興味関心を持ち、食卓に取り入れる機会を増やすことができると考えるため。
<p>12 食品ロス削減のために何らかの行動をしている国民を増やす</p> <p>食品ロス削減のために何らかの行動をしている国民の割合</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会を形成するため、消費者が食品そのものだけでなく、食品を取り巻く環境等に関して活動することは非常に重要であると考えられるため。 ・食を取り巻く環境を理解することで食の大切さや意味について意識する事から食の改善が図られると思うので、指標とするべきと考える。
<p>13 地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている国民を増やす</p> <p>地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている国民の割合</p> <p>地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承している若い世代の割合</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域など地元食材や地域の伝統料理に関心を持ち、愛着を持つことで食への関心を引き出せるものと考え取り入れたい。 ・各地域によって食の嗜好は異なりを見せ、伝統料理はその土地の食文化として今後も受け継がれていくべきである。これらは食の教材として興味関心をよせることも出来るので、残すべきと考える。 ・食を取り巻く環境を理解することで食の大切さや意味について意識する事から食の改善が図られると思うので、指標とするべきと考える。 ・風土に合わせた伝統的な和食・郷土料理・作法等の食文化の継承は重要であると考えため。 ・本市の各地域の良さを未来に残すためにも、重要であると考えため。
<p>14 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する国民を増やす</p> <p>食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する国民の割合</p> <p>食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する若い世代の割合</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都で発生した乳児ボツリヌス症による死亡事案等、安全性に関する知識を持っていれば防げるものがあるため。 ・安全な食品の選択については誤った情報や風評等に惑わされない正しい知識と判断が必要であると考えため。 ・食を取り巻く環境を理解することで食の大切さや意味について意識する事から食の改善が図られると思うので、指標とするべきと考える。
<p>15 推進計画を作成・実施している市町村を増やす</p> <p>推進計画を作成・実施している市町村の割合</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食を取り巻く環境を理解することで食の大切さや意味について意識する事から食の改善が図られると思うので、指標とするべきと考える。